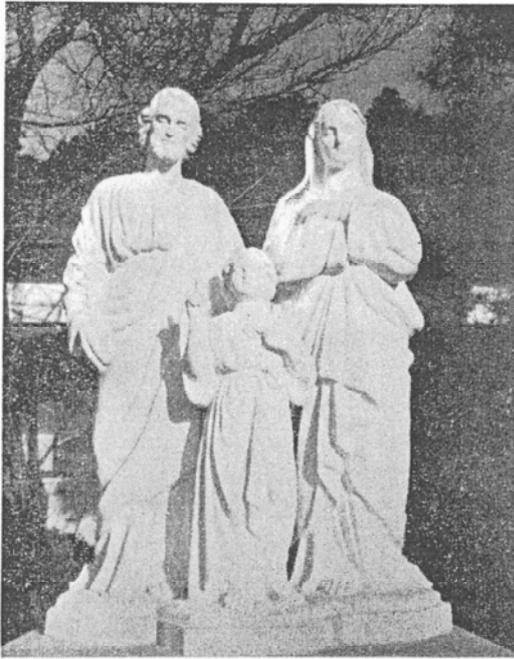




古屋司教認可
発行所 教区事務所
定価 一部 10円

マリア様への讚美

京都司教 古屋 義之



公会議では、いつもマリア様を中心にして、マリア様の守護のもとに進行しております。今度の公会議でも、十一月二十一日のマリア様の奉獻の日を最後の日として、閉会が宣言されたように、いつも教皇様は、マリア様の祝日とか、マリア様に関する日をお選びになります。どれほど全世界の信者がマリア様を愛しているかがこれによっても分るでしょう。

この公会議において、「教会の母なる聖母」という呼び名が新しくつくられました。エクメニズム(教会一致運動)の一端として、プロテスタントの人々にマリア様をよく知っていただくように、その対策の一つとして、マリア様に教会の中に入れていただくための賛否両論の討議がなされました。でも最終的な決定はまったく聖霊のお導きによってなされ、投票ではわずかの差でありま

したが、マリア様は、謙遜なお心で教会の中に入られたわけなのです。教会は、マリア様を通して、恩恵の特別なるご保護をいただいております。レジオの皆様は、マリア様のみ跡に忠実に従い、マリア様にならってイエズス様のみ栄えをあげることができまします。特別に選ばれた勇士としての自分をよく自覚し、マリア様のために、各自の働きを忠実にこなすために、世界のすべてのレジオオリエの会員は、マリア様のものに祈り合っており、お互いにその心において結ばれていることでしょう。

お話しがかわりますが、待降節第三の主日は喜びの日曜日です。主において常に喜びましょう。神様は、いつも私達のそばにいて下さっているのですから。マリア様と共にイエズス様はあなた方の内にいらつしやいます。だからいつも喜びねばなりません。地上的には苦しんでいて、霊的に、超自然的に喜びにあふれていくというの、本当のカタリック信者といえるでしょう。

心に喜びをもって、人々によい感じを与えるならば、どんなに神様に對して光榮を帰すことになるでしょう。聖パウロが申されたように、「汝ら主において喜び、繰り返えし

言う、喜び」です。苦しみ、悩みに心がさわぐ時は、反省いたしましょう。その時は、マリア様から離れ、孤独になっている時だと思ひましょう。心の平安、喜び、希望をもって元氣よく進んで下さい。美しい犠牲をお捧げしながら、この待降節を美しくおくり、そして私たちの心に、またすべての他の人々の心に、イエズス様がお生れになりますように心からお祈りいたしましょう。

「昨年十二月十三日京都コミテウム年次総会においてなされた古屋司教様のアロクテオの要旨」

写真説明 關部聖家族女子高等学校校庭にある「聖家族」の御像

新年の御挨拶を心から申し上げます。私達神学生は東京におりながら、毎号教区時報を送っていただき、いつも嬉しく拝読しております。今度も神学生に関する報告はこの紙上に幾度かなされ、また衣笠にある小神学校からも「神学校便り」が出されましたもの、具体的にその入学方法がまだ知られていないように思

わけてならず、初めてお便りするのといたしました。先日、ある信者さんから私達の目的と入学に必要な資格についての問い合わせの手紙が参り、教区神学生一同喜んでおりました。しかし、このように司祭職を希望する人が、その他にもおられるのではないかと考えます。そのような望みを心のうちに持ちながらも、それを実行に移す前に、不幸にして一般のさしせまった生活に没入してしまうという現象が実際に起っているとすれば、その責任の幾分かは、私達にあるのかも知れないと思えるのです。

大神学校便り

「神学校、神学生の目的」
それ故、まず最初に神学校が何のためにあるのかと考えて見るのは、あなたが無駄なことではないと思えます。勿論神学校の目的は、将来の司祭を養成することであり、神学生にとつては、自分が司祭になることなのであって、実際の布教や社会の撲滅が目的ではありません。従つて神学校がつくろうと、神学生がなろうとしている司祭がいかなる者かを考察するのは重大なこと

「入学のために」
それ故に、神学校入学を希望する人に必要なものは、あることに秀でていることではなく、神の道具たる心、もう一人のキリストたる心と、もう熱意に燃えていることとをいふでしょう。真心から十字架を背負ってキリストの御後に従おうとする人に対して、どんな障害が考えられるでしょうか。各人によつてそれぞれ異つた事情があるかも知れません。しかし、そのようなことは、主任神父様に相談すれば、賢明な助言が与えられ、手続きをして下さることは確かです。

現在、京都教区には、二十名足らずの司祭とほぼ同数の神学生しかおりません。十年たつて、やつと三十名になるかならぬかの司教数が五十七の教会を有つこの教区が余りにも淋しいものではないでしょうか。それ故、今まで私達神学生のためにしつと下された霊的、物質的援助に感謝すると共に、新しい召命が増加しますように皆様のお祈りと御配慮をお願いいたします。

「京都教区神学生一同
写真説明 大神学校哲学院聖堂における日曜日のミサ」

司祭の異動

ヨゼフ 村上師
青谷教会主任

お知らせ

都合により

「京都教区時報」は
今号をもって、無期限に
休刊となりますので
御諒承下さい

です。しかしこれを短かい文章で表現するには「司祭」というものは、あまりにも大きすぎます。それ故にここではこの問題を簡単に取り扱ひ、神の聖旨にかなうものなら、次の機会に詳しく考えていきたいものです。

まず司祭は、教会の手であり、神の道具であるといえるでしょう。毎朝司祭は全教会に代つて、全教会のためにミサを捧げます。即ち、司祭は、全教会、全信者の祈る姿の合わされた手なのであり、また神から与えられた恵みを秘跡によって仲介する神の道具といえる訳です。従つて司祭は、人間として何の変わりもないかも知れません。司祭の偉大さは、人間としてというよりも、司祭であることによつて、もう一人のキリスト(Alter christus)として偉大なのです。

